

投資事業評価調書（新規）

部課室名	農林水産部農林水産局 総合農政課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 廣田 道夫 (小川 至紀)	内線	3927 (3946)
------	---------------------	---------------------	---------------------	----	----------------

事業種目	中山間地域振興対策	事業名	事業区間	総事業費	4 億円
		新山村振興等農林漁業特別対策事業	八鹿地区		

所在地			着工予定年度	完成予定年度
八鹿町高柳地内			H14	H17

事業の目的	事業内容
<p>中山間地域の特性を踏まえつつ、地域農業の振興や都市との交流、定住条件の整備を総合的に振興することにより、平地との格差是正を図る。特に本地区は従来からの取り組みである特産品開発の一層の推進と地域産品の需要拡大を図り、農業の振興と地域の活性化を促進する。</p> <p>事業主体：八鹿町</p>	<p>農林水産物処理加工施設 1棟 200㎡ (国 50% 県 8% 町 42%) 農林水産物直売・食材供給施設 1棟 1,190㎡ (国 50% 県 7% 町 43%)</p>

評価視点	評価結果の説明
(1)必要性	<p>八鹿町は、市民農園(2か所・高柳)、棚田交流人(高柳)による農作業体験等を通じ、都市住民との交流を積極的に進めているところである。また、今後は北近畿豊岡自動車道の八鹿 IC の建設が予定されており、人の流れも大きく変化することが予想される。</p> <p>一方、人口の減少やさらなる高齢化に対応するには、地域にある特産品等を利用した加工・販売を通じた農業の振興と一層の交流を推進し、地域の活性化を図る必要がある。</p> <p>そのため、特産品を開発するとともにその加工・販売・食材提供等のための拠点となる施設を本事業にて整備するものである。</p> <p>本町は、従来から山椒・柿・ゆずを植栽するとともに、その拡大と新たにカリン・麦の導入を計画しており、また「あゆの山椒煮」「山椒の佃煮」「ゆずジャム」等の加工品もあり、ハム・ソーセージ・アイスクリームの製造を志向する畜産農家も出てきている。現在、町では農産加工グループの育成(現在5グループ)にも努めており、この施設は、グループの活動の場として、また特産加工開発の一層の推進と需要拡大のための拠点になるとともに、各種交流のための情報の発信基地となり交流人口の増加につながる。また、女性・高齢者の雇用の場ともなり、地域の活性化も大いに期待でき、これらの取り組みを支援することは必要である。</p>
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施により下記の効果が期待できる。 新たな雇用創出。(14人雇用) 特産品販売等による所得増(2%増)。 費用対効果 1.72 用地等地域の協力体制も整っている。
(3)環境適合性	<p>資源の有効利用と循環を図るため、事業で実施する施設については、極力木造とし、内装についても木質化に努める。また、施設の周辺は緑化に努めるとともに、景観等へも配慮する。</p>
(4)優先性	<p>本施設は、県土整備部との連携による「道の駅」としての機能を予定しており、用地整備については中山間総合整備事業で計画している。それらの施策と連携し実施することにより、中山間地域振興への相乗効果が期待できるため、14年度の実施が必要である。</p>

評価の結果	着手妥当	左の理由	上記内容により着手が妥当と認められた。
-------	------	------	---------------------